掲載日:2022年10月27日，面名:佐渡，記事ID:KIJ20221027_M001300100AG83001
(C)新潟日報社

薬剤師がアドバイス

生活習慣病の重症化予防

島内11薬局 薬科大、新大と連携

高血圧や高血糖などが原因の生活習慣病患者の重症化を予防するため、「かかりつけ薬局」の薬剤師がアドバイスする取り組みが、佐渡市で行われている。薬剤師が一人一人の患者の食習慣などの課題に合わせた指導を行うことで、疾患や治療への理解を深めてもらい、減薬にもつなげたい考えだ。

佐渡薬剤師会と新潟薬科大（新潟市秋葉区）、新潟大の3者が連携した共同研究として実施され、佐渡市内の11薬局で、今夏スタート。9月末で患者約30人が参加している。

患者に治療への理解を深めてもらうために作成されたミニリーフレット

食事や運動 聞き取り

1年かけ回復効果 検証

かかりつけ薬局の薬剤師が患者に薬を渡す際に、患者の塩分摂取、食事や運動習慣を聞き取って把握し、服薬指導に加え、継続的に食習慣の改善などを助言する。高血圧や高血糖が体に悪影響を及ぼすメカニズムを患者に分かりやすく伝えるための動画やミニリーフレットも作成した。

取り組みは1年間行い、患者の行動の変化や回復効果を検証する。佐渡市は2020年の高齢化率が42・6％と高く、離島で医療資源も限られているため、病気の重症化などを防ぐ上でも、薬剤師が患者に関わる役割が重要になっているという。

加えて、同意を得た患者の検査値などのデータを島内の医療機関を中心に共有する「さどひまわりネット」を活用することで、今後比較検討なども可能となることから、佐渡市で実施することになった。

新潟薬科大の富永佳子教授は「薬剤師が関わる取り組みの効果を調べることで、今後、ほかの地域でも同じような動きが広がっていくことが期待される」と説明する。

佐渡薬剤師会副会長の金子正規さん(60)は「薬局は医療インフラの一つとして重要な役割を担っており、その役割を一層高めたい。この取り組みにより、市民に薬局や薬剤師を身近に感じてもらいたい」と話している。